

住まい購入の負担感を減らすヒント

～東新住建 住まい購入者層の日常生活で負担を感じるものを調査～

東新住建株式会社（社長：辻明典、本社：愛知県稲沢市高御堂 1-3-18。以下「東新住建」）が運営する調査機関「住宅市場研究室」（URL：<http://www.jyuseikatsu.jp/>）では、住まいを購入した、または購入したい人に対し、日常生活で負担を感じるものをウェブアンケートで調査し、この度レポートにまとめました。

調査レポート URL：<http://www.jyuseikatsu.jp/press/press.html>

住宅に関する支払いは負担感が大きいのか？

住まいは人生の中で最も高額な商品とされています。そんな住まいを購入した、または購入したい人にとって、住宅に関する支払いは負担感が大きいと考えられます。当研究所では、そんな住まい購入者層に対して「日常生活で負担を感じるもの」を5つ選択してもらうアンケートを実施し、住宅に関する支払いを負担に感じている人はどの位の割合を占めているのかを割り出しました。（エリア＝愛知県在住、サンプル数＝215件、実施時期＝2013年6月）アンケートの結果をしてみると、1位は「住宅に関する支払い（60%）」、2位は「自動車に関する支払い（55.81%）」となりました。やはり住まいに関するローン、家賃などは最も負担が重いと感じている人が多いようです。しかしこの2つは僅差のため、車の購入やローン、ガソリンなどの維持費も、住まいと同じくらい負担を感じている人が多い事がわかりました。住まいと自動車以外では、3位が「食費（46.05%）」、4位が「生命・入院・傷害保険（41.86%）」、5位が「水道・光熱費（40.00%）」となっています。

住まいの活用で生活の負担を軽くするヒント

確かに住まいは高額ですが、時代の変化と共に、最新テクノロジーの住まいを活用した工夫をこらした生活を送ることで、負担を軽くする事が出来るようになってきました。

例えば、普及が著しい太陽光発電システムを搭載する住まいがあれば、光熱費を低減させる事が可能です。また、住まい自体も遮熱性が高まっているため、一層光熱費は低減すると思われます。最近では、家庭で充電可能なプラグインハイブリットカーや、電気自動車の普及が加速していきそうです。そうなれば、太陽光発電の電気で車の燃費を賄えることになり、これは自動車所有の負担軽減に繋がると考えられます。

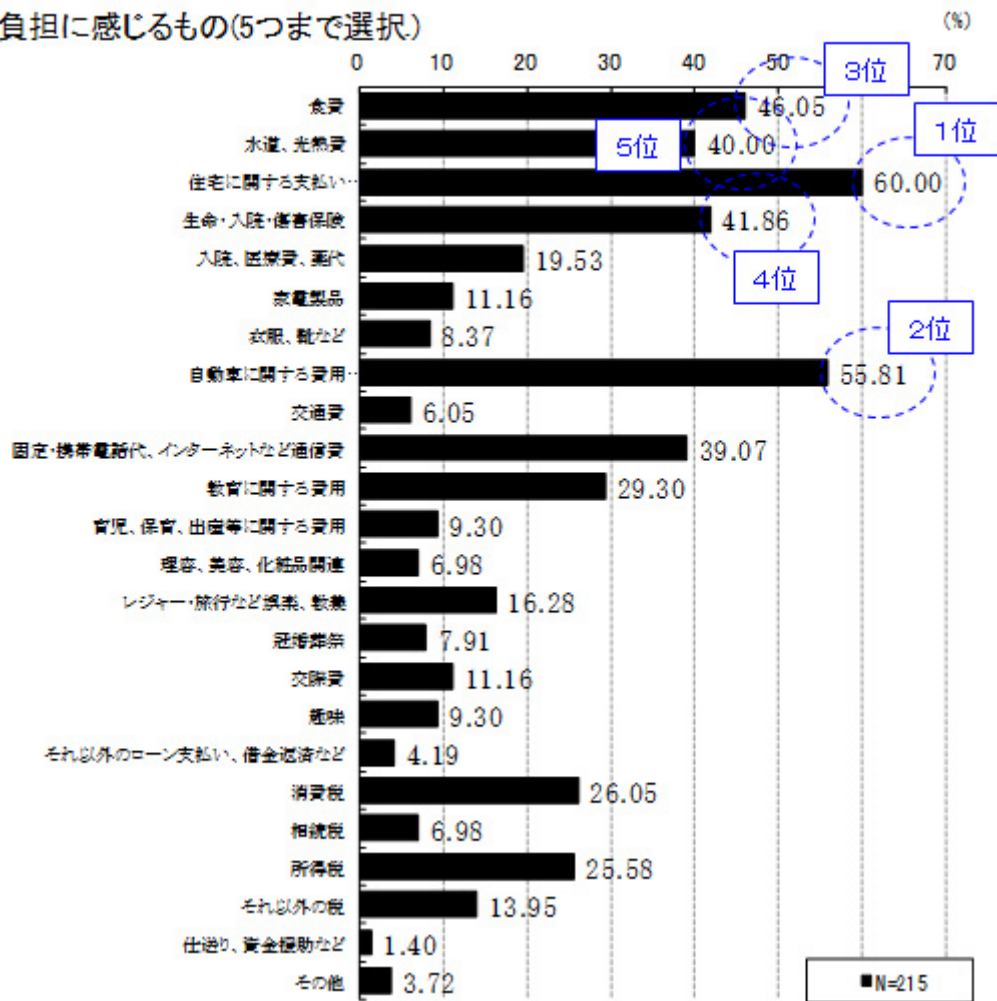
また、住まいの中に家庭菜園、またはLED照明などを活用した省スペースで省エネルギーの野菜工場でも設置できれば、食費の負担も軽減できる可能性があります。

このように、最新テクノロジーの住まいを購入することで、日常生活全体の負担感を軽減させる事が出来ると考えられます。住まい購入を検討されている方は、このような最新テクノロジーをフル活用した住まいを購入することをお勧めいたします。

※当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。また見通しは予告なく変更される事があります。予めご了承願います。

表1. 日常生活で負担に感じるもの

負担に感じるもの(5つまで選択)



調査対象者 : 愛知県在住で3年以内に戸建住宅・マンションを購入した、
または3年以内に戸建住宅・マンションを購入したい人

サンプル数 : 2013年6月調査 n=215

調査会社 : 株式会社インテージ www.intage.co.jp

データ分析 : 東新住建株式会社住宅市場研究室

<このリリースのお問合せ先>
東新住建株式会社 住宅市場研究室 小間幸一
電話番号 : 0587-23-7641 (直通)